

本市では、市政情報を正確かつ迅速に皆さまにお届けするため、広報紙をはじめ、ウェブサイトやSNS、その他のメディアを活用し、情報発信をしています。

広報紙では、注目情報や子育て世帯、シニア向けのカテゴリーに分けた情報や、特集記事として市がお知らせしたい情報を発信してきましたが、スマートフォンの普及とともに、近年ますますインターネットやSNSを通じた情報発信の必要性が高まっています。

広報手段の有効性の確認や配送手段、今後の取り組みについて、皆さまのご意見を活用させていただくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。（広聴広報課）

【調査結果】

- 調査期間 2025年10月6日(月)～10月15日(水) (10日間)
- モニター数 427名 (男性 185名 女性 241名 不明 1名)
- 回答者数 372名 (男性 161名 女性 210名 不明 1名)
- 回答率 87.1%

【分析】

《回答者内訳》

(人)

	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	全体
男性	6	12	28	40	37	24	14	161
女性	12	26	62	59	41	10	0	210
不明	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	19	38	90	99	78	34	14	372

《第1章 広報紙全般について》

- ・全体の68.3%が「毎月読んでいる」と回答。（問1）
- ・広報こおりやまの入手方法として、全体の82.1%が「町内会を通じて入手」と回答。（問4）
- ・今後、広報こおりやまを「紙媒体」で読みたい方は77.2%、次いで「PDF」が30.4%であった。（問8）

《第2章 ウェブサイトについて》

- ・全体の65.3%が「よく利用している」「たまに利用している」と回答。（問11）
- ・市ウェブサイトなどで使ったことのある機能について、半数以上が「市公式SNSの閲覧」と回答。（問14）

《第3章 SNS・メディアなど、その他について》

- ・市政に関する情報を収集する手段としては、「広報紙」が82.5%で最も多く、次いで「市ウェブサイト」が54.0%であった。（問15）
- ・市公式SNSのうち配信している情報を見たことがある媒体は、「LINE」が47.3%で最も多く、次いで「YouTube」が26.9%であった。（問17）
- ・市政広報番組で見たこと・聞いたことがある番組は、「郡山市週間トピックス」が83.6%で最も多く、次いで「サタふくのコーナー内」が38.2%であった。（問19）

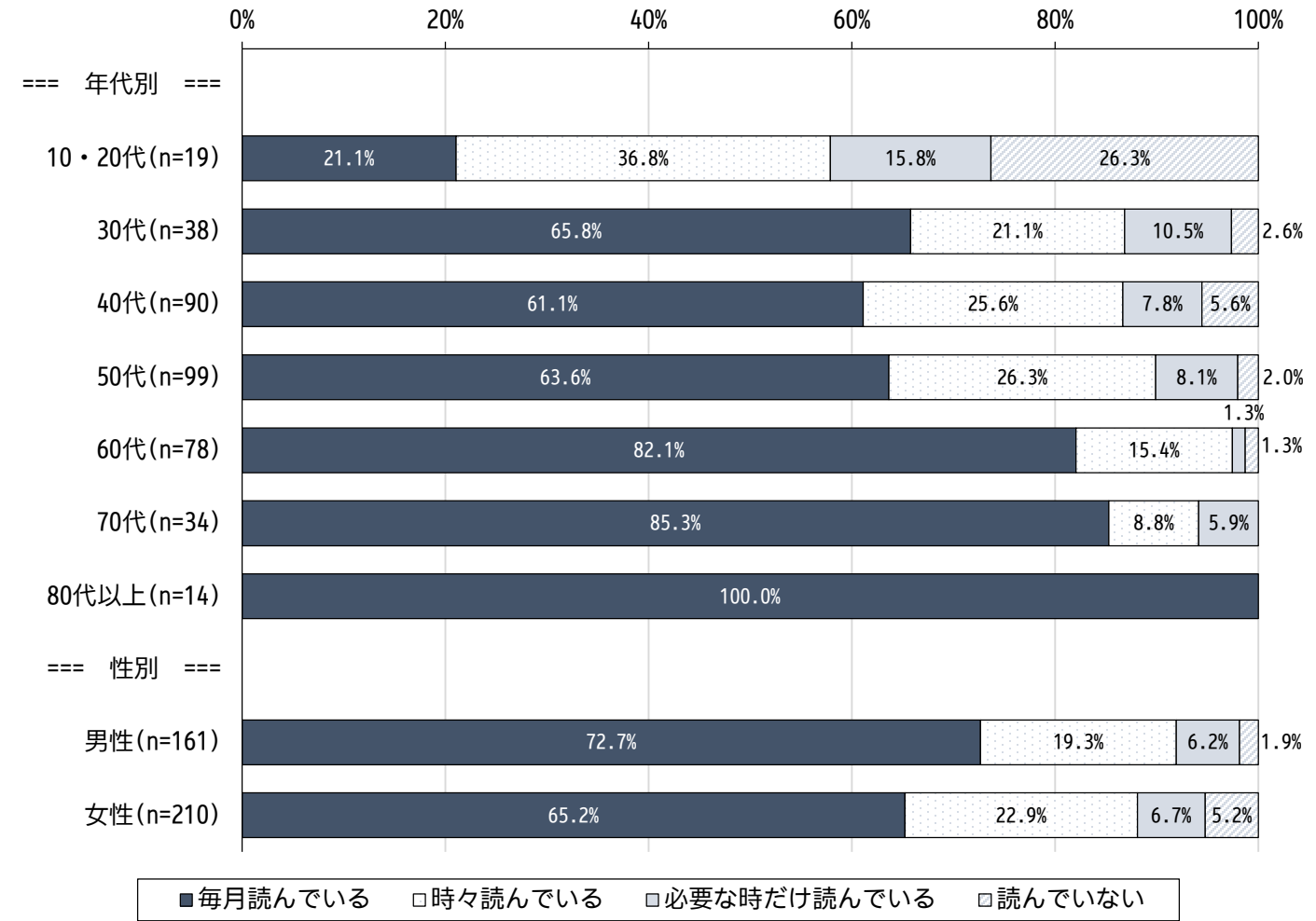
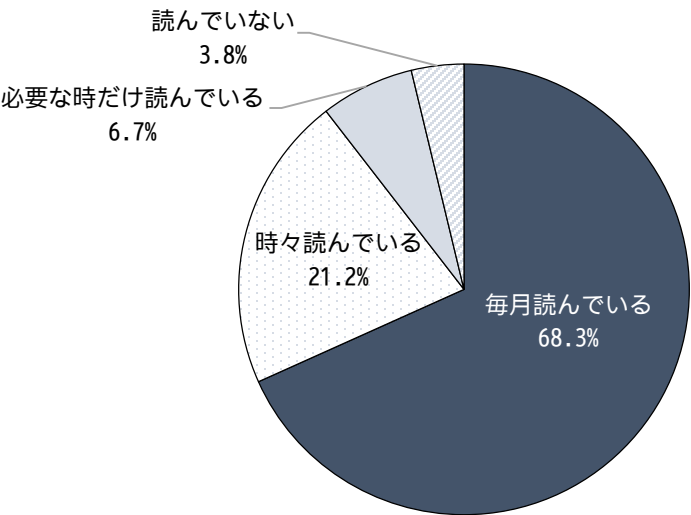
【考察】

- ・市政に関する情報入手手段として、8割を超える方が広報紙を選んでおり、最も有効な手段であるといえる。多くの方が紙媒体で読みたいと回答しているが、PDFやアプリという回答も昨年度より増加しており、今後も紙・電子媒体両方での提供が必要である。
- ・広報紙の内容・掲載量については、現行内容を評価する好意的な回答が多かった。
- ・配布方法については、現行の配布方法を継続したほうが良いという回答が7割を超えていた。別の方法を検討したほうが良いという回答が1割程度あり、電子データによる閲覧方法などの提案があったが、情報弱者世帯について懸念が示されるなど、現状では町内会を通じた配布を行いつつ、電子データや商業施設への設置についても継続していく必要がある。
- ・SNSについて、利用者が増加傾向にあり、「LINE」「YouTube」については毎年利用者が増加している手段のため、情報発信にあたって注力していく必要がある。

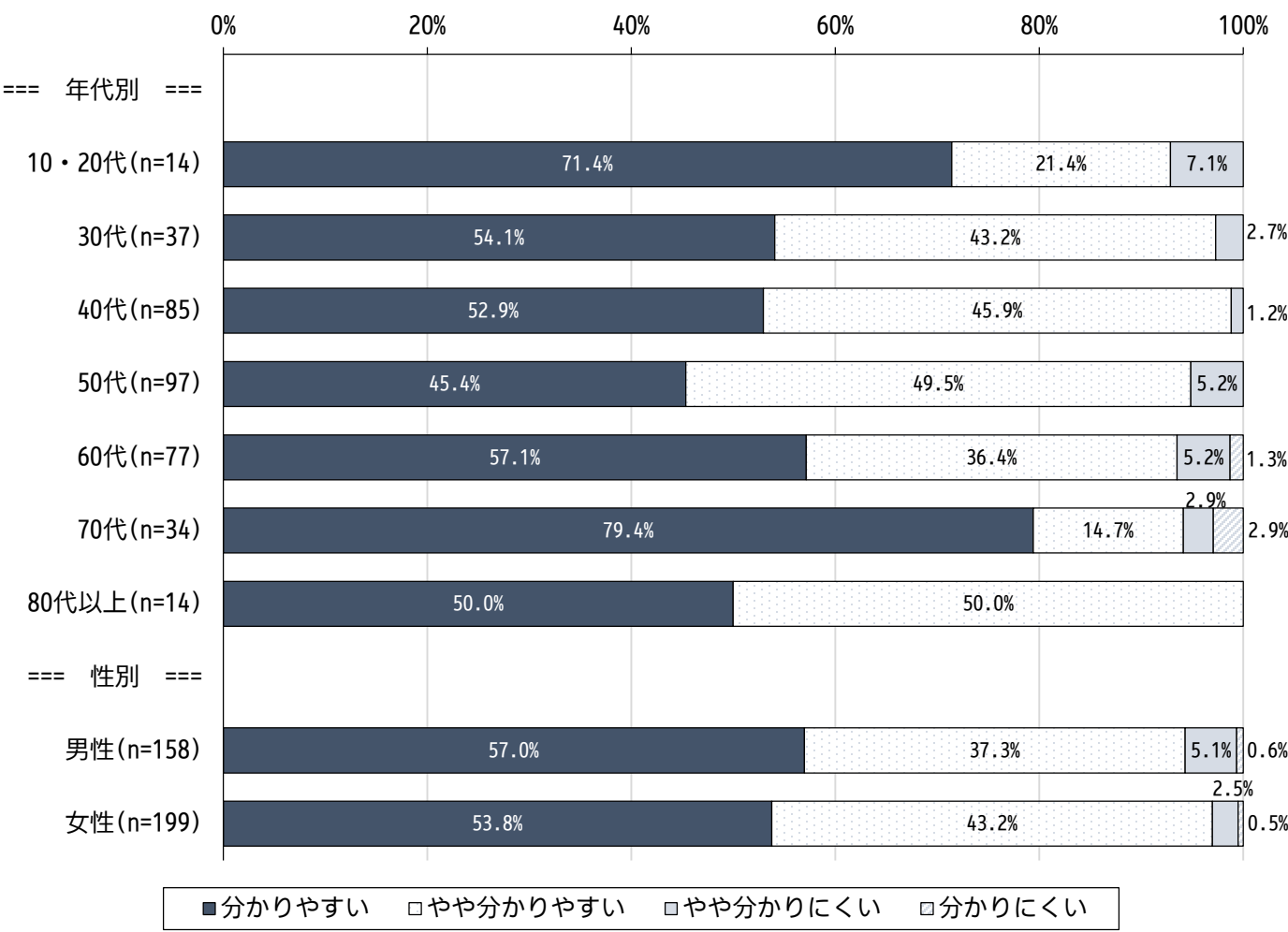
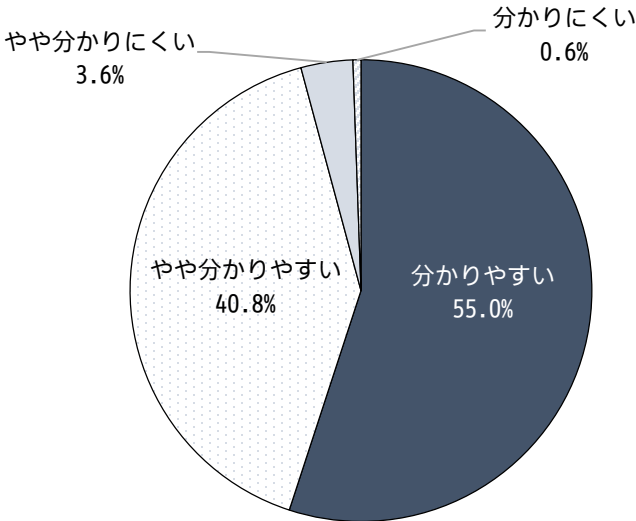
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
※棒グラフのn=〇〇は回答者数を示します。

第1章 広報紙全般について

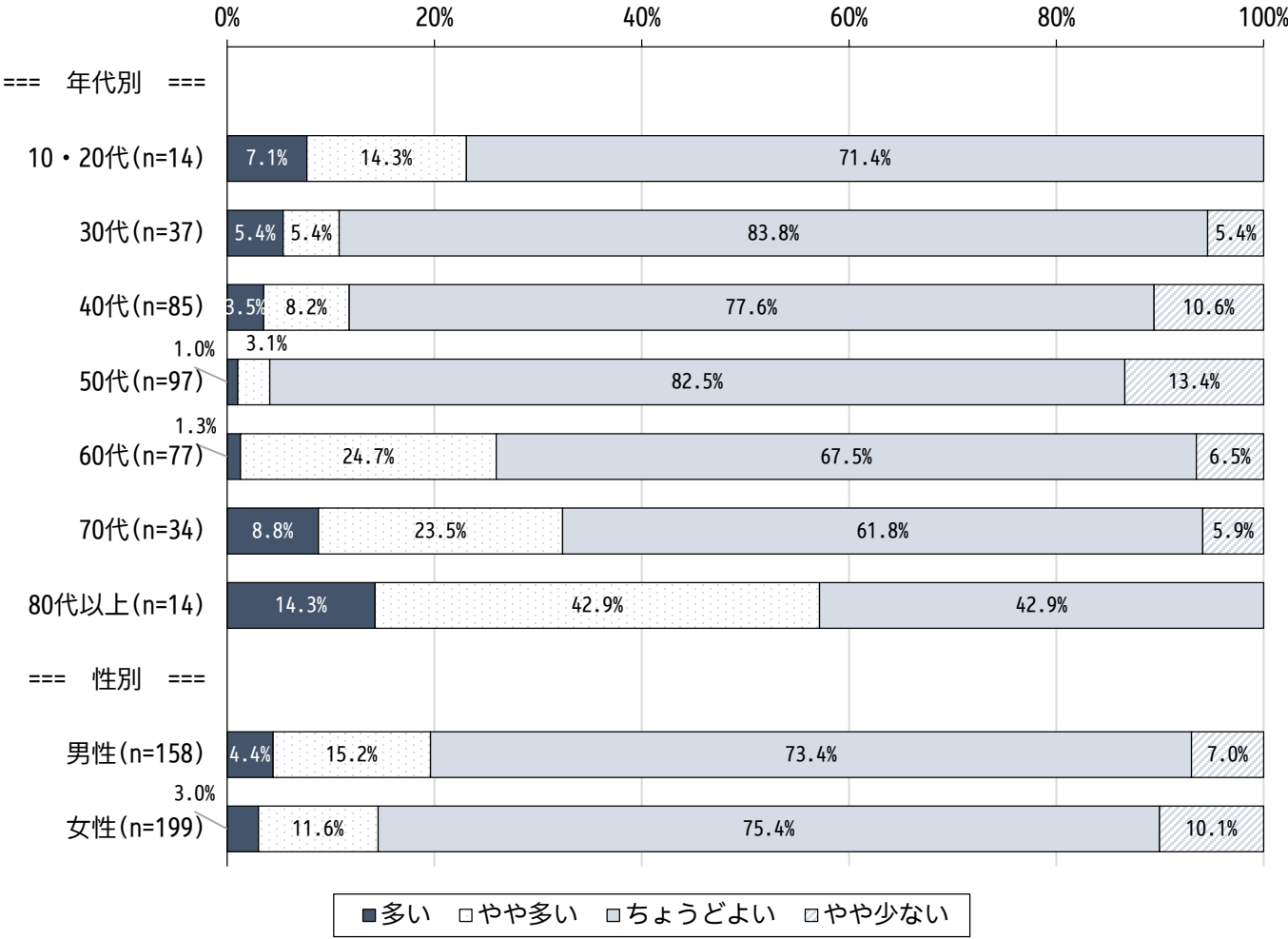
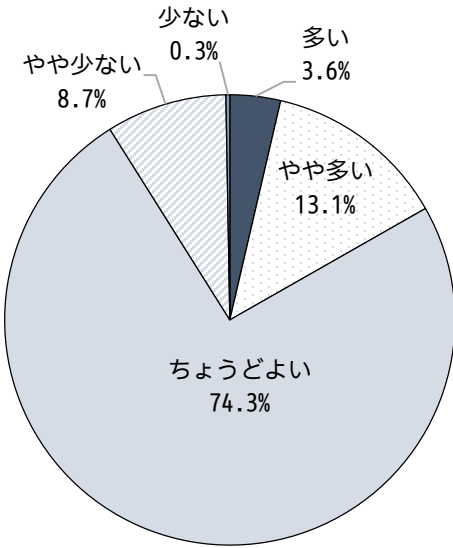
問1 「広報こおりやま」を読んでいますか？（1つ選択） （回答者：372人）



広報こおりやまを「毎月読んでいる」と回答した方が一番多く68.3%であった。年代別では、10・20代を除く年代では6割を超えており、60代以上では8割、80代以上では全員が毎月読んでいるという回答が得られた。



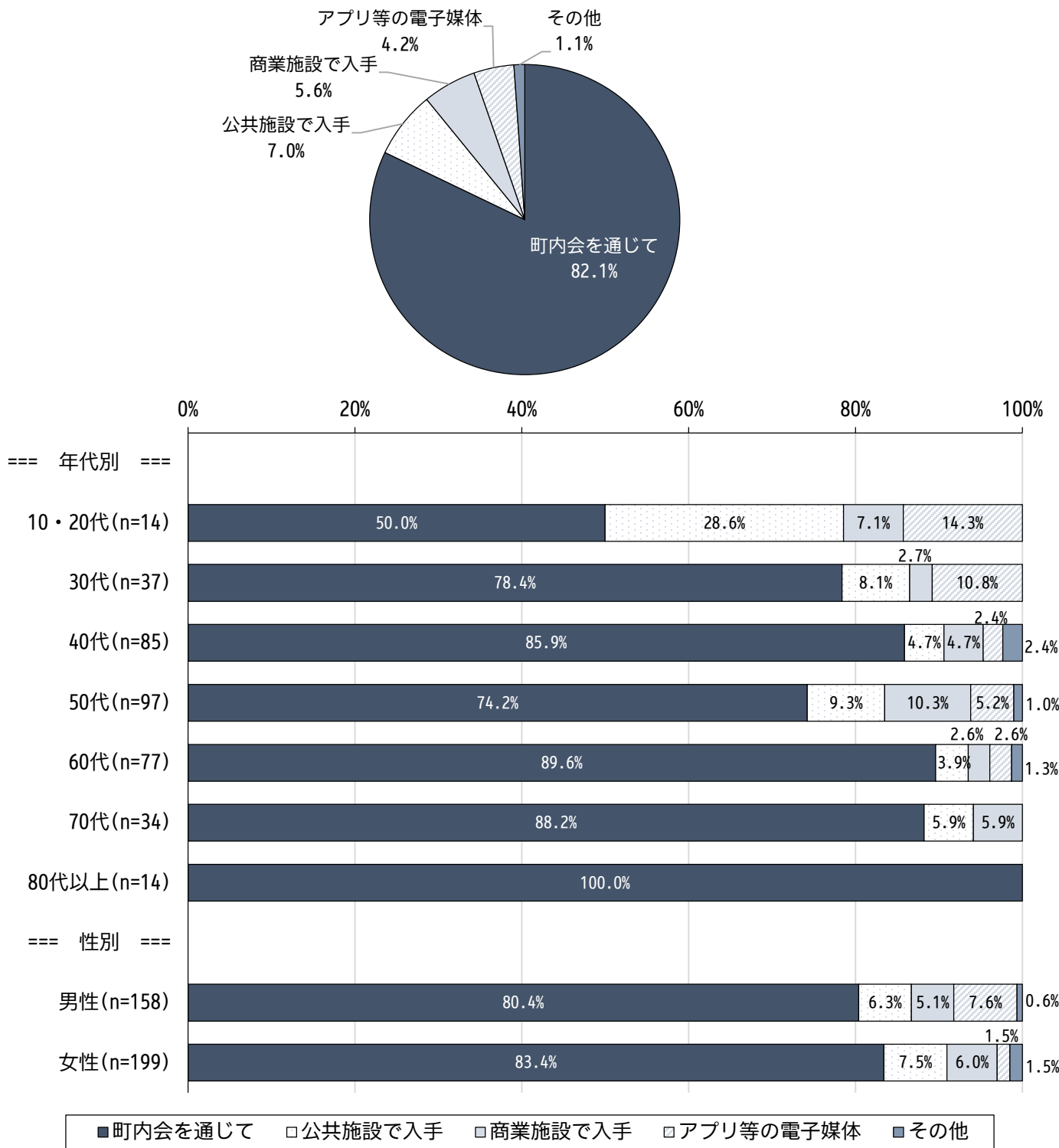
「分かりやすい」、「やや分かりやすい」の回答の合計が95.3%であった。
全年代で性別問わず、「分かりやすい」、「やや分かりやすい」の回答が9割を超えた。
広報紙の掲載情報については読者にわかりやすく伝わっているものと考えられる。



全体で74.3%の方から掲載情報量については「ちょうどよい」との回答が得られた。
なお、60代以上では、年代が上がるにつれ「多い」または「やや多い」と回答する割合が増えている。
フォントや文字数などの配慮が必要と推察された。

問 4 「広報こおりやま」をどのような形で入手されましたか？（1つ選択）
（問1で「読んでいる」と回答した方への追加質問）

（回答者：358人）



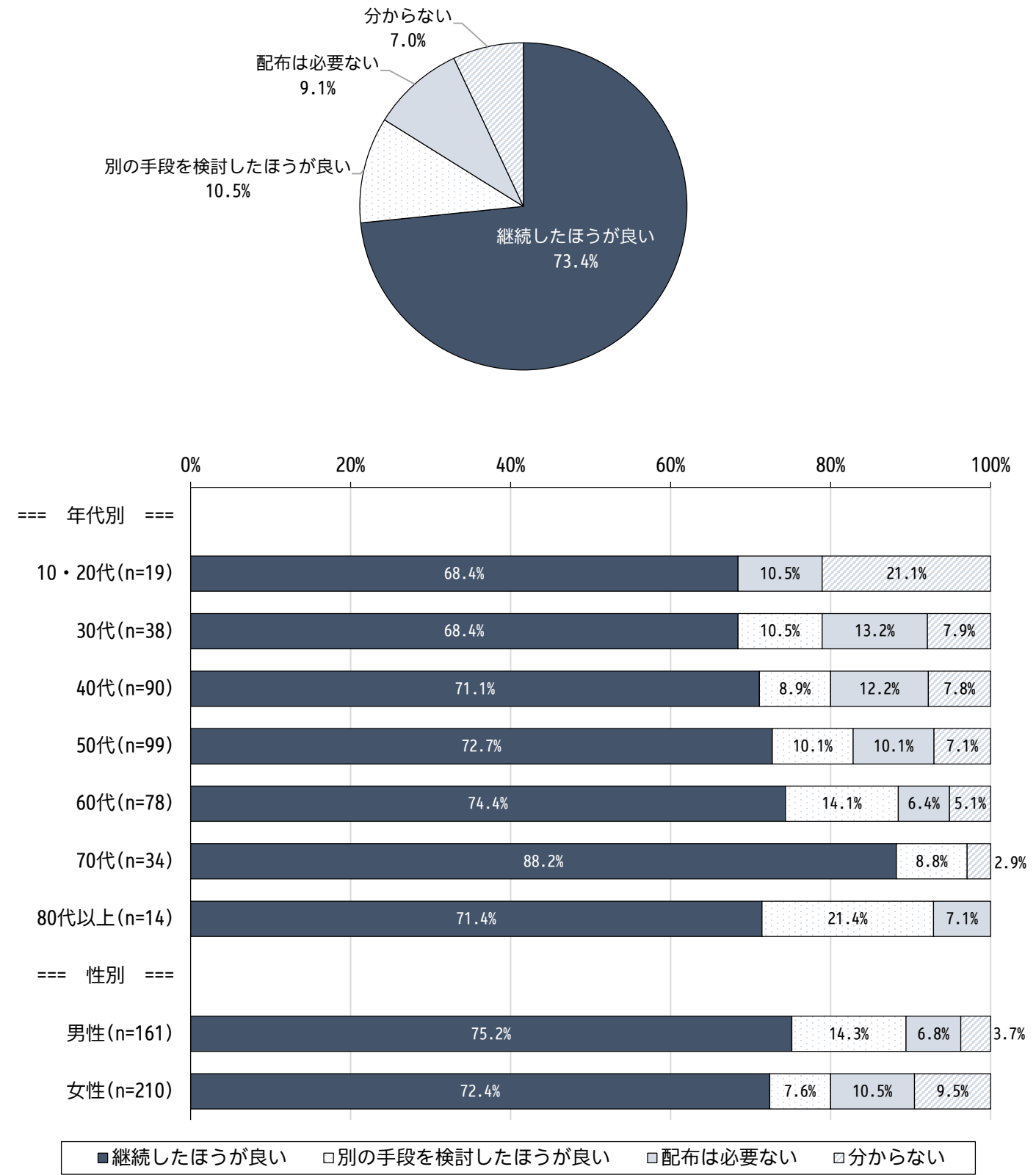
※ 電子媒体一覧（どれも無料で見ることができます）

- ・PDF…紙媒体と同じレイアウトのまま見られる電子ファイル
- ・Catalog Pocket（カタログポケット）…文字の音声読み上げ・多言語翻訳（10言語）機能が付いている電子ブックのアプリ。ウェブブラウザでも見られます。
- ・マチイロ…文字の音声読み上げ・翻訳機能が付いていない電子ブックのアプリ。ウェブブラウザでも見られます。
- ・マイ広報紙…紙面を文字のみで紹介しているウェブブラウザ

全体を通じて、8割を超える方が「町内会を通じて」広報紙を入手しており、最も有効な配布手段であると考えられる。

なお、60代以下では「アプリ等の電子媒体」での入手との回答が見受けられ、10・20代では14.3%、30代では10.8%が電子媒体から入手しており、今後の入手方法としてニーズが増加していくことが予想される。

問5 「広報こおりやま」は町内会を通じ、町内会加入世帯へ配布されるほか、未加入世帯のために公共施設や商業施設へ配置しています。現在の配布方法についてどのように思いますか。
 (1つ選択) (回答者：372人)



現在の配布方法を「継続したほうが良い」という回答が73.4%を占めており、現時点では町内会を通じた配布と合わせ公共施設・商業施設への配置が最も有用な配布方法であると考えられる。

問6 <問5で「別の手段を検討したほうが良い」と回答した方への追加質問>
現在の配布方法に対する別の手段として、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記述) (回答者：25人)

【電子等】

- ・電子データ等による広報が理想的ですが、その手段を取れない人にとっては現行手段を継続するしかありません。しかし、町内会的な活動が将来的にも継続できるか疑問に感じています。
- ・町内会の負担軽減、印刷代軽減が必要と思うが、電子版を見れない、情報弱者世帯をどうするかを考える必要がある。
- ・紙ベースの配布は前時代な感じがし、紙という資源を無駄使いしているようにも思える。PCやスマホの利用者はデジタル広報でよいし、デジタルが苦手な方にだけ紙製も店頭や役所の窓口で配布すればよい。戸別配布よりは経費がかからない。また市HPを充実し、いつでも情報を閲覧できるようにするべきです。
- ・紙媒体は無駄になるので必要ないと思います。
- ・冊子を配っても電子媒体で見る人はゴミとなるため、町内会での配布も廃止すべき。

【全世帯配布】

- ・町内会加入世帯だけでなく、全世帯に配布し、スーパーなどには置かなくて良いと思います。
- ・世帯毎に市負担の費用で送付をお願いします。

【公共施設や商業施設への配置のみ】

- ・町内会では、配らない。商業施設のみ！
- ・紙での町内会全世帯配布はやめて、最低限公共施設と商業施設への配置のみで良いと思います。削減費用をゴミ処理等に充てるべきかと思います。
- ・全世帯ではなく、読みたい人が公共施設や商業施設に置いて自分で手に入れる
- ・若い方は電子媒体で閲覧できるので、無駄を省くためにも、最低限の数だけ行政センター等の公的機関に置くだけで良いと思います。

【その他】

- ・二次元コードなどを付与してポスターなどで配布

問7 <問5で「配布は必要ない」と回答した方への追加質問>
配布の必要がない理由について、ご自由にお書きください。(自由記述) (回答者：26人)

【紙媒体削減のため】

- ・紙媒体は環境によくないため、希望する方には紙、電子で良い方には電子配布など、配布の仕方考えた方がよい。
- ・スマートフォンで見ることが出来るため、世帯への配布はせずに、公共施設、商業施設での設置のみでよいと思います。余りが出るようであれば、設置も廃止してよいと思います。
- ・町内会に未加入の世帯は若い世帯が多いのでは無いでしょうか？その場合であればウェブで見るという方が多いのかなと思うので紙媒体でなくてもいいと思います。
- ・設置した部数のうち何部持ち帰っているのかにもよるが、大量に残り捨てているなら電子もあるのだから、コストカットすべき。

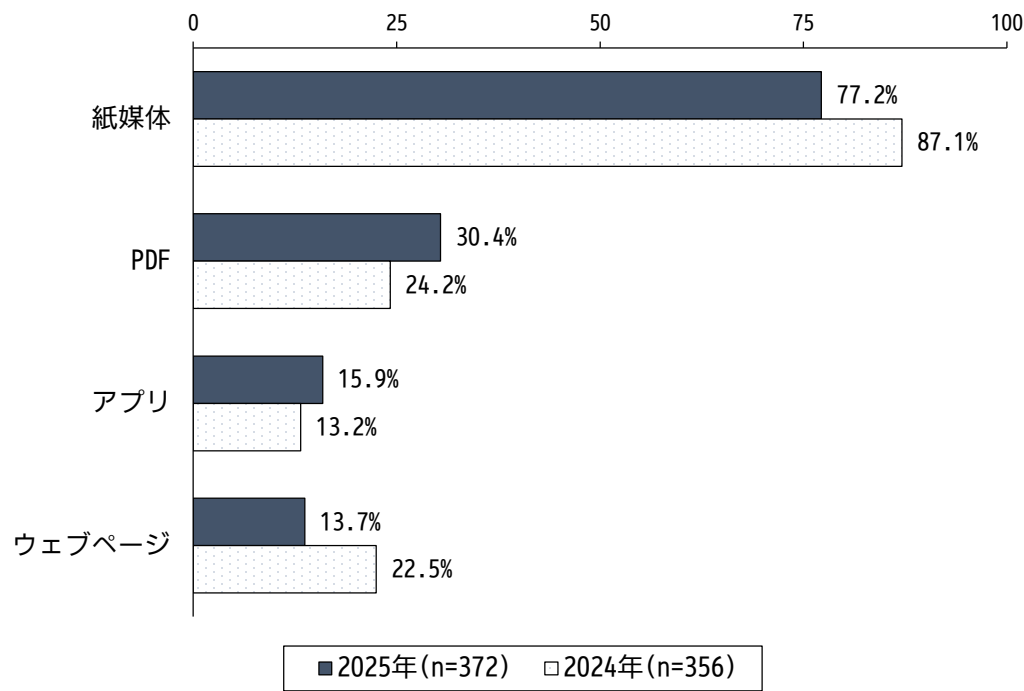
【町内会での配布の負担】

- ・町内会に未加入。配布する人も大変。必要な人が取りに行けばよい。公共施設や商業施設に置くだけでよい。必要な時はWEB検索やベニマルでもらって来ている。
- ・高齢化が進み、負担になるだけだから。
- ・配布する方に負担がかかるので。
- ・町内会役員の負担軽減、経費削減、ICTの利用でなんとかしてほしい。ただ、独居老人など見守りが必要な人には紙での配布も必要なのかなと思う。
- ・町内会の担当の負担になる。ごみも増える。ネットで見れる人はそっちのほうがよいのでは。

【その他】

- ・町内会に入る人が減るから。

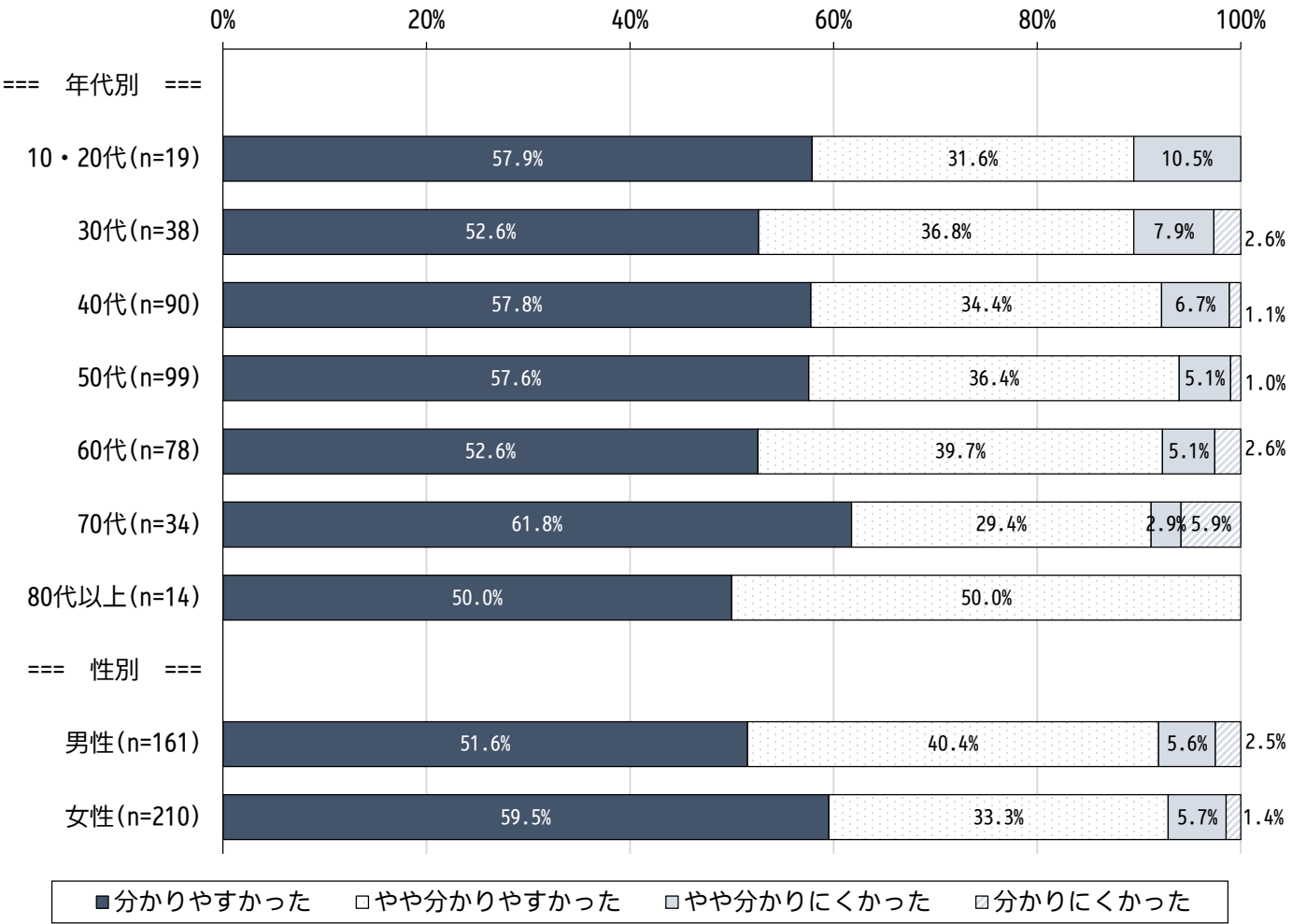
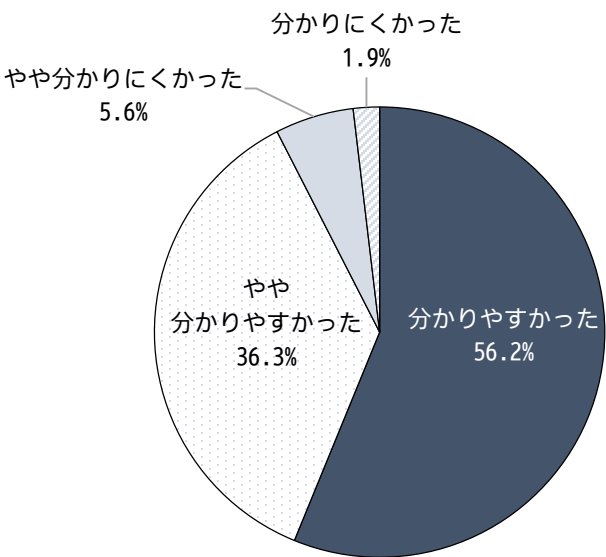
問8 今後、「広報こおりやま」をどの媒体で読みたいですか？（当てはまるもの全て選択）
(回答者：372人)



紙媒体が77.2%と一番多く選ばれており、次点はPDFで30.4%となっている。
昨年度と比較すると、紙媒体が約10ポイント低下した一方、「PDF」及び「アプリ」についてはそれぞれ増加した。

問9 記事は分かりやすかったですか？（1つ選択）

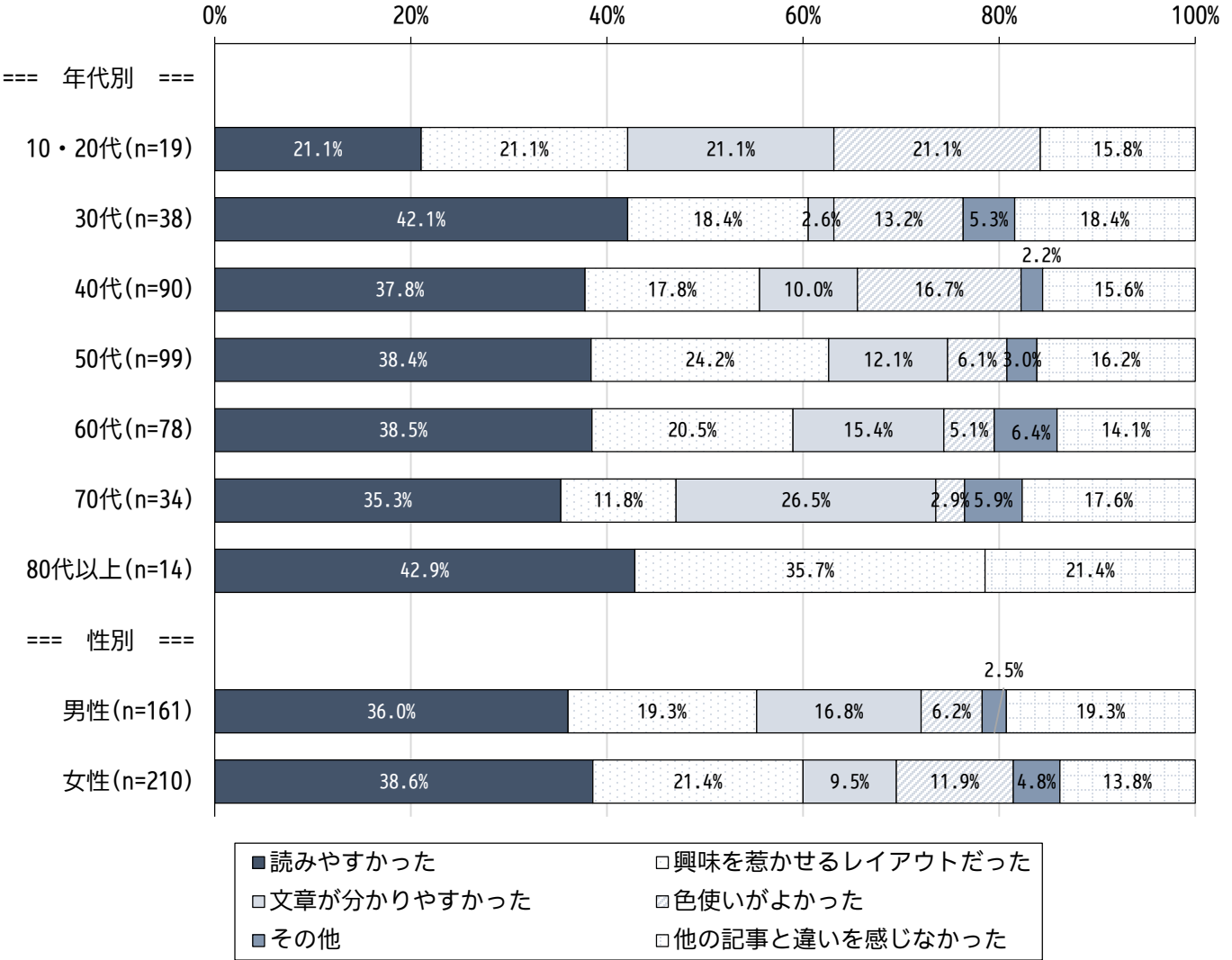
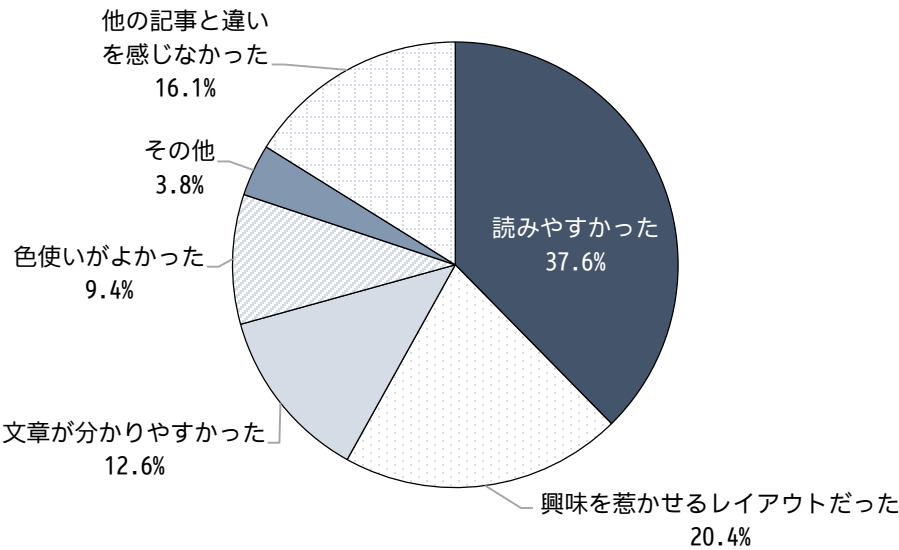
(回答者：372人)



全世代で「分かりやすかった」と「やや分かりやすかった」の合計が9割を超える回答であり、分かりやすさという点からは満足度が高い内容であったことが伺えた。

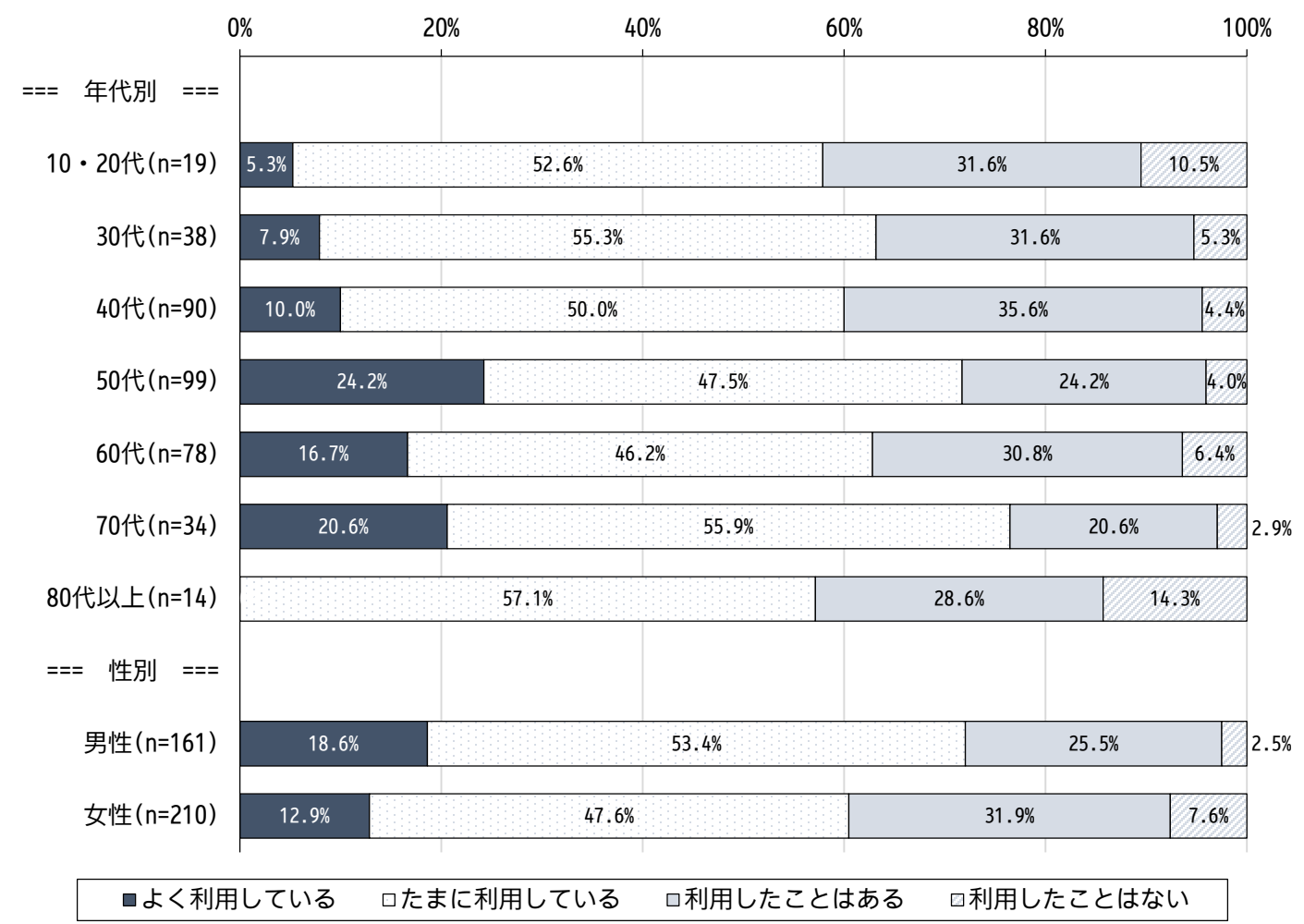
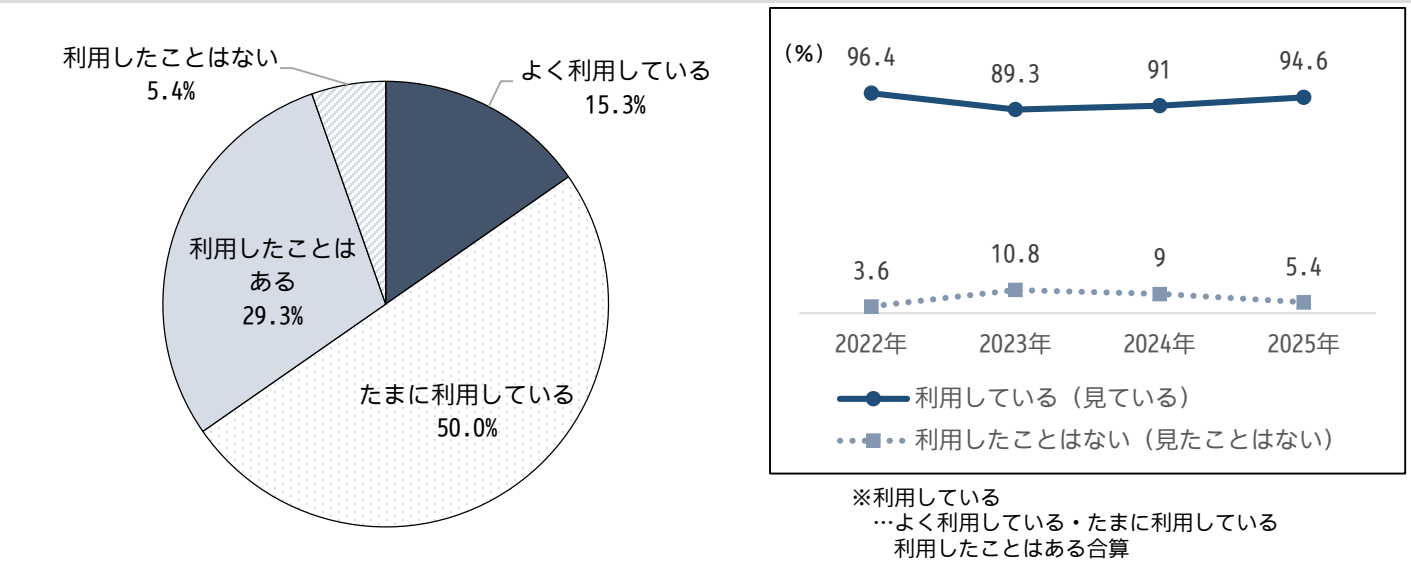
問10
この特集記事は市ではなく、民間事業者が作成しました。どのような印象を受けましたか？
(1つ選択)

(回答者：372人)

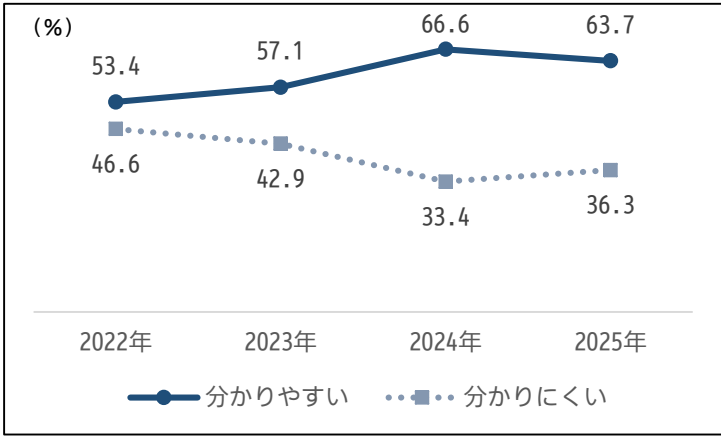
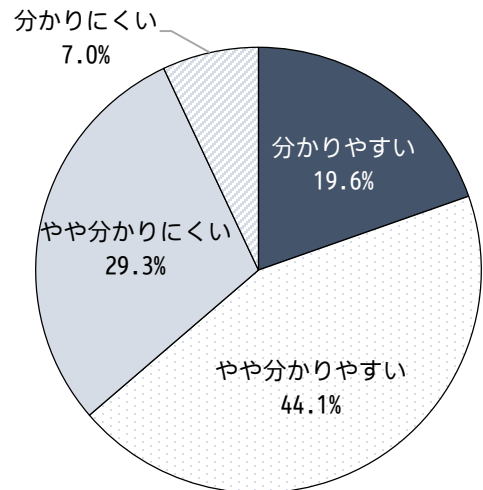


「読みやすかった」「興味をひかせるレイアウトであった」という回答が半数以上を占めていた。引き続き、民間事業者への委託により、新たな手法を取り入れ、スキルアップを図ることで、より魅力的な広報紙作成につながる効果が期待される。

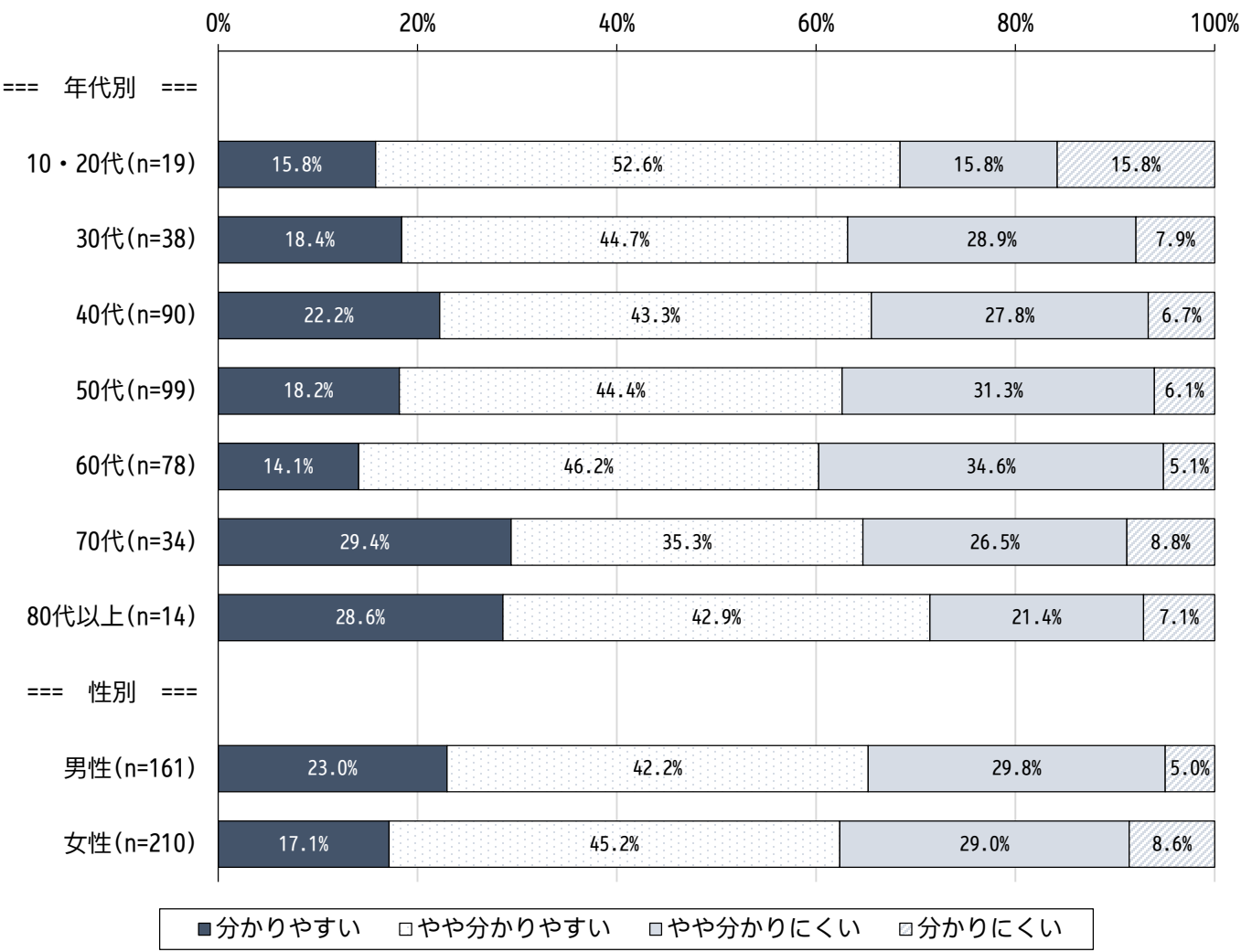
問11 市ウェブサイトを利用していますか？（1つ選択） （回答者：372人）



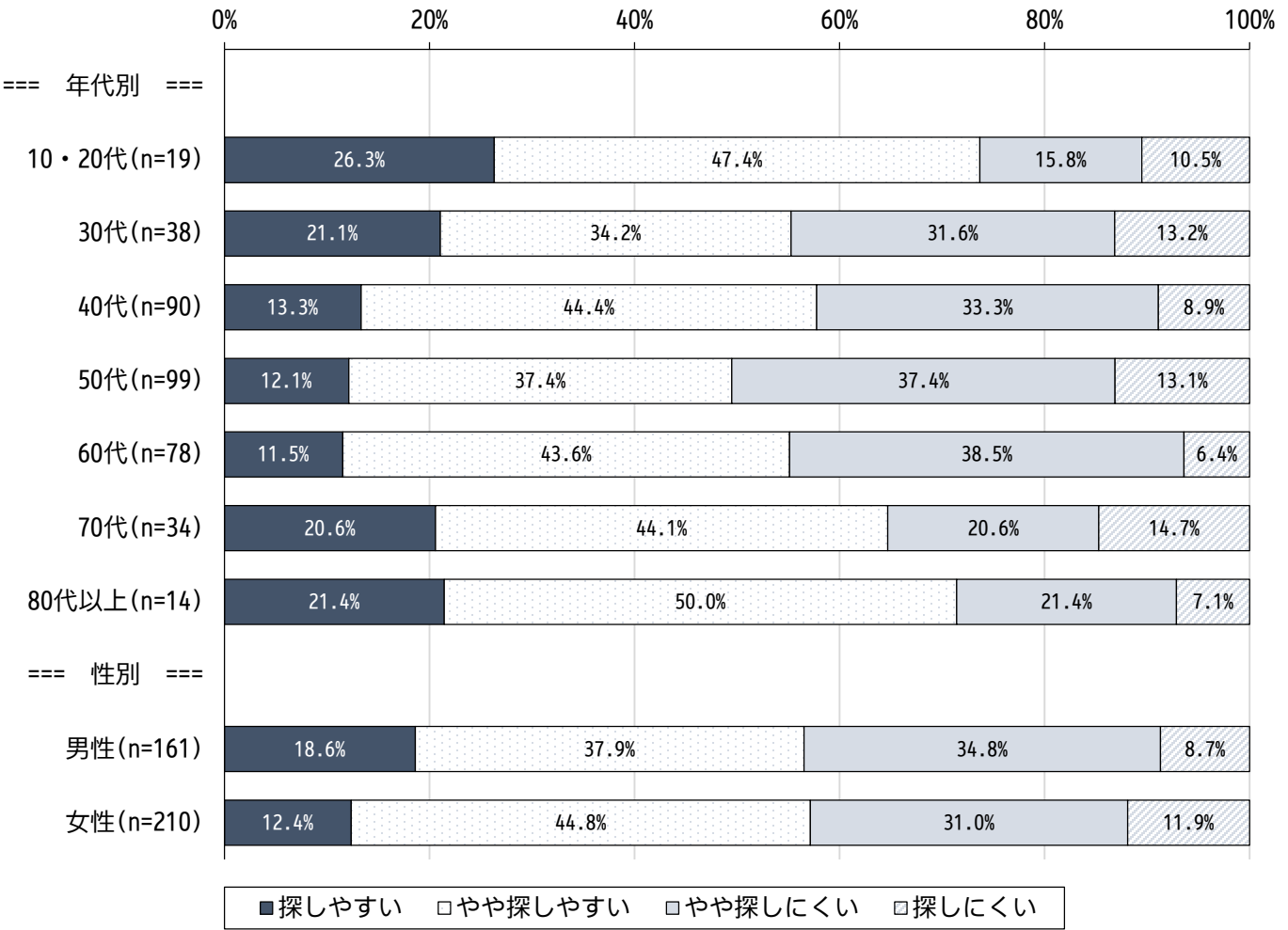
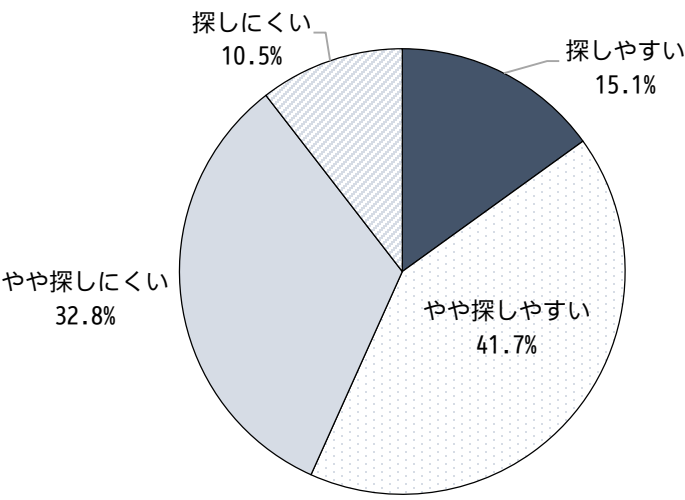
「利用したことはない」との回答は5.4%であり、ウェブサイトが多くの方に利用されていることが明らかとなった。
全世代を通じてウェブサイトを利用しており、情報発信手段として有効であることが分かる。



※分かりやすい…分かりやすい・やや分かりやすい合算
分かりにくい…分かりにくい・やや分かりにくい合算



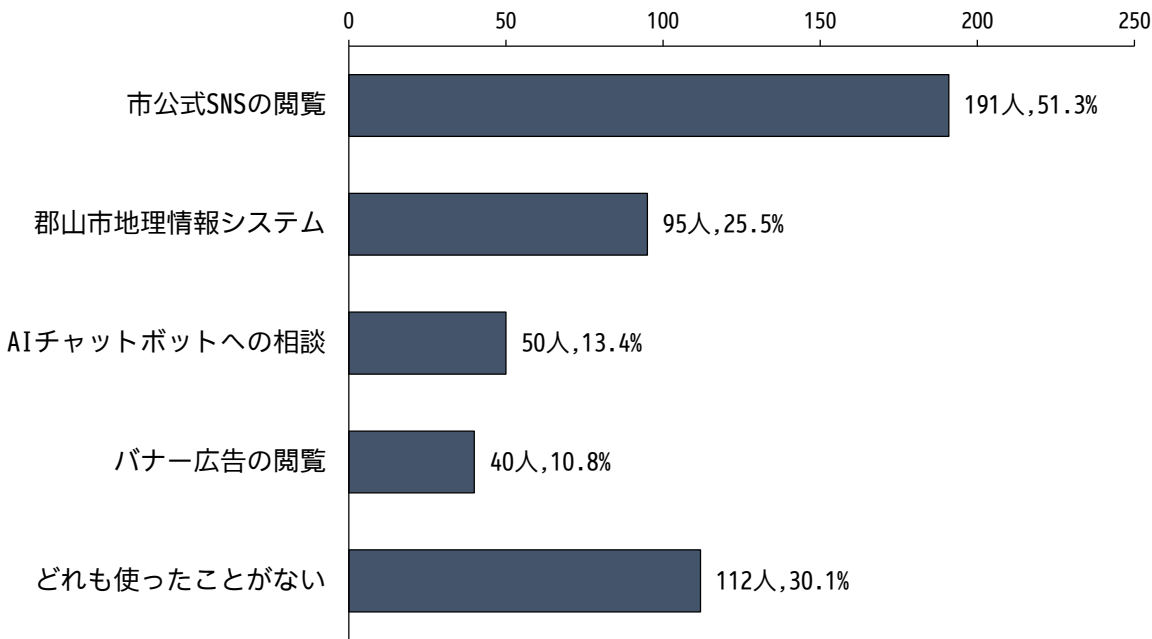
全世代を通じて、「分かりやすい」「やや分かりやすい」という回答の合計が63.7%であり、昨年同様分かりやすい掲載内容であることが伺える。



全世代を通じて半数以上（56.8％）については、「探しやすい」「やや探しやすい」という回答であった。特に、10・20代と80代以上からは、70％以上が「探しやすい」「やや探しやすい」という回答であったが、その他の年代については、より分かりやすいカテゴリー分類や、チャットボット等の利用などに工夫が必要と推察される。

問14 市ウェブサイトなどで使ったことのある機能はありますか？（当てはまるもの全て選択）

(回答者：372人)



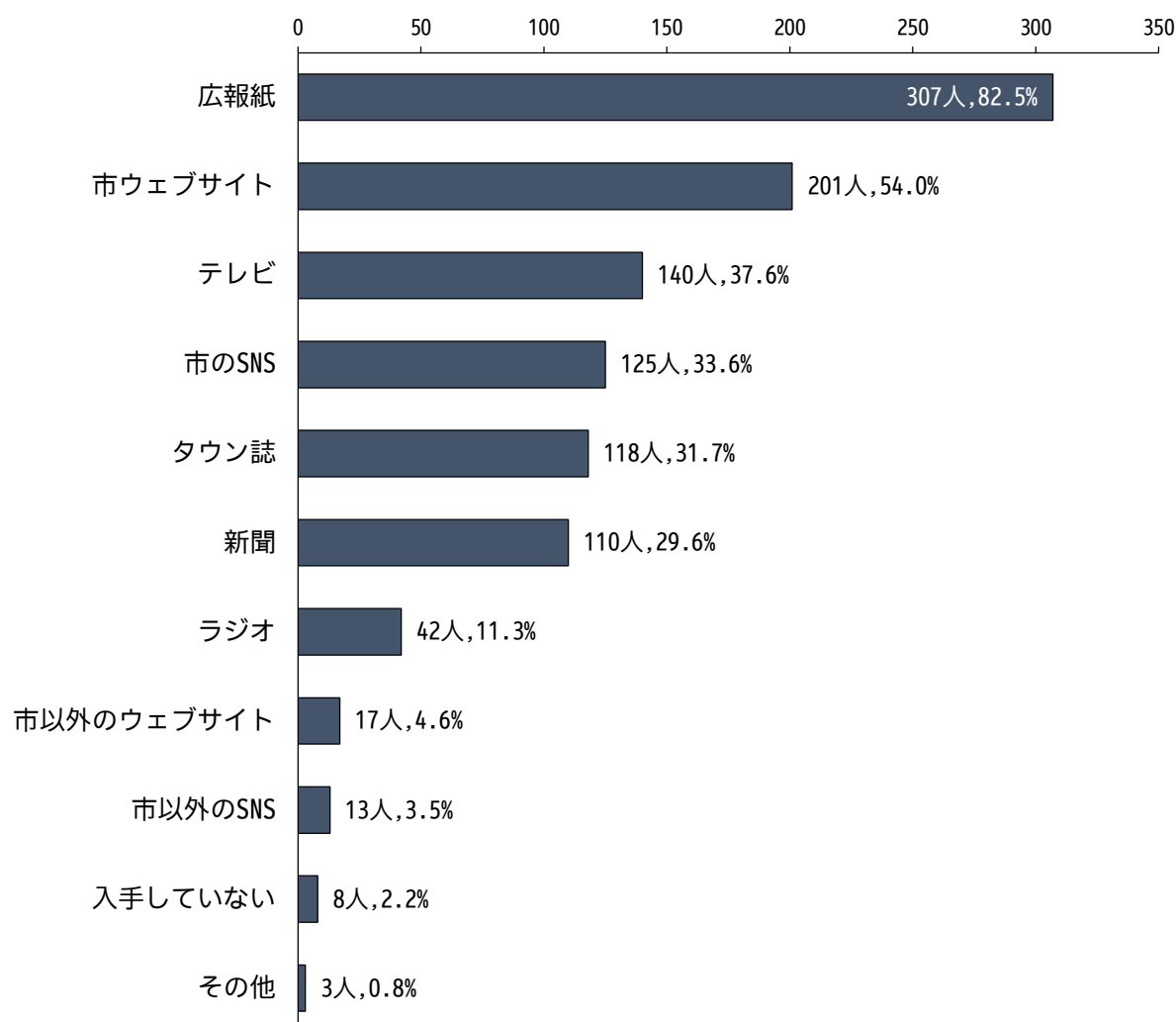
※AIチャットボット…対話形式で問合せ内容について関連のある情報を回答する機能

ウェブサイトにおける機能の利用状況について、半数以上（51.3%）が「市公式SNS」を利用しており、4分の1以上（25.5%）が「郡山市地理情報システム」を利用していることが分かった。「AIチャットボット」については利用率が13.4%と利用者が少ないため、さらなる周知を図るとともに、機能改善するなどしてより充実したウェブサイトの運用が必要である。

第3章 SNS・メディアなど、その他について

- ・SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）…インターネット上で、個人が情報の受信・発信をできるサービス（例：LINE、Facebook、YouTubeなど）
- ・メディア…情報を伝える媒体。（例：テレビ、ラジオ、新聞など）

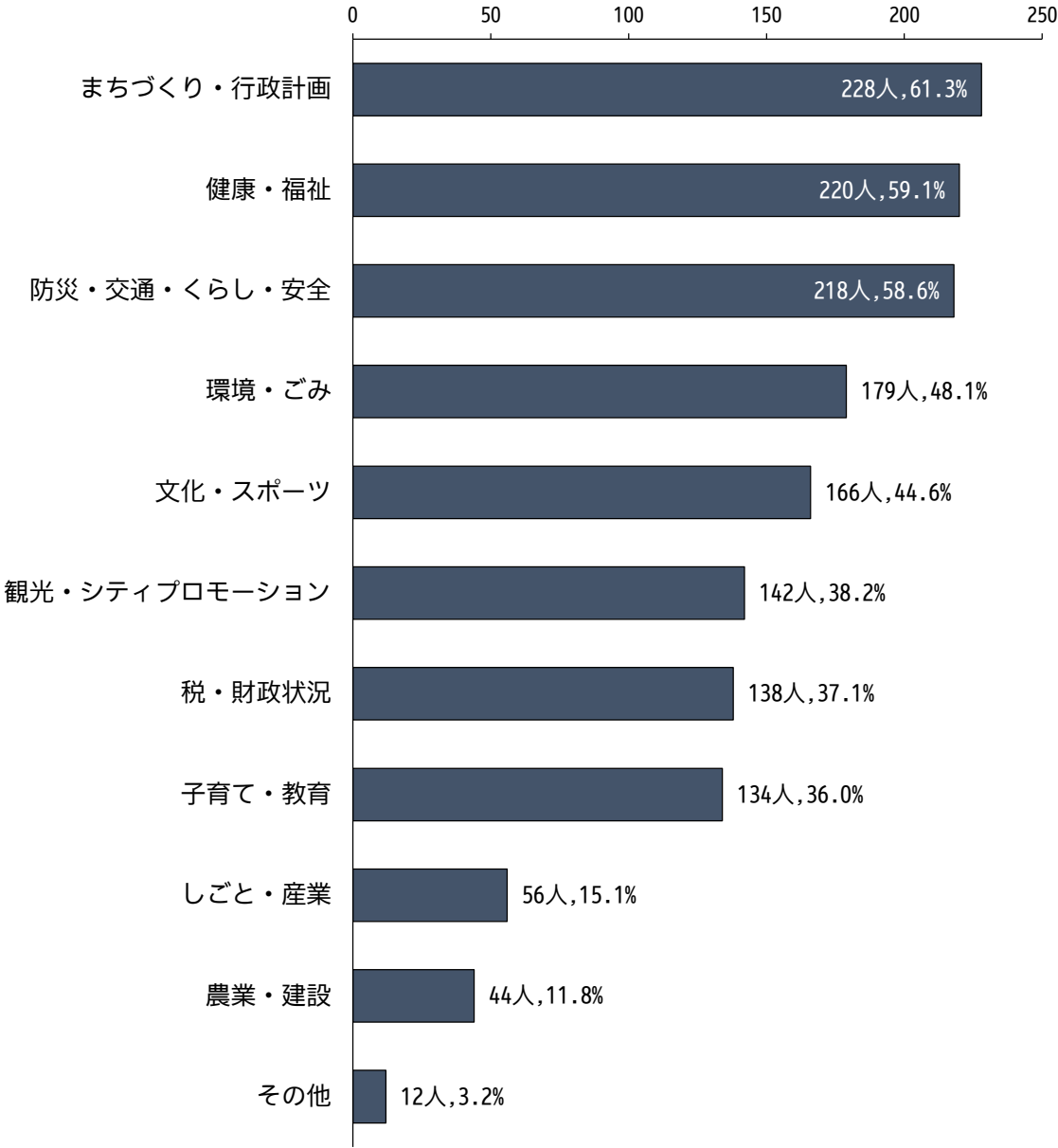
問15 市政に関する情報はどのように入手していますか？（当てはまるもの全て選択）（回答者：372人）



※「その他」を選択した方の主な内容

- ・市役所、公民館などにおいてある紙媒体の資料
- ・知人との会話で入手
- ・LINEのみ

「広報紙」から市政に関する情報を入手しているという回答が82.5%となっており、最も身近な入手手段であることが分かる。また、「市ウェブサイト」が半数以上、「テレビ」、「市のSNS」が3分の1程度を占めており有用な手段である。「ラジオ」については11.3%にとどまっており、広報手段としては費用対効果を注視して行く必要がある。



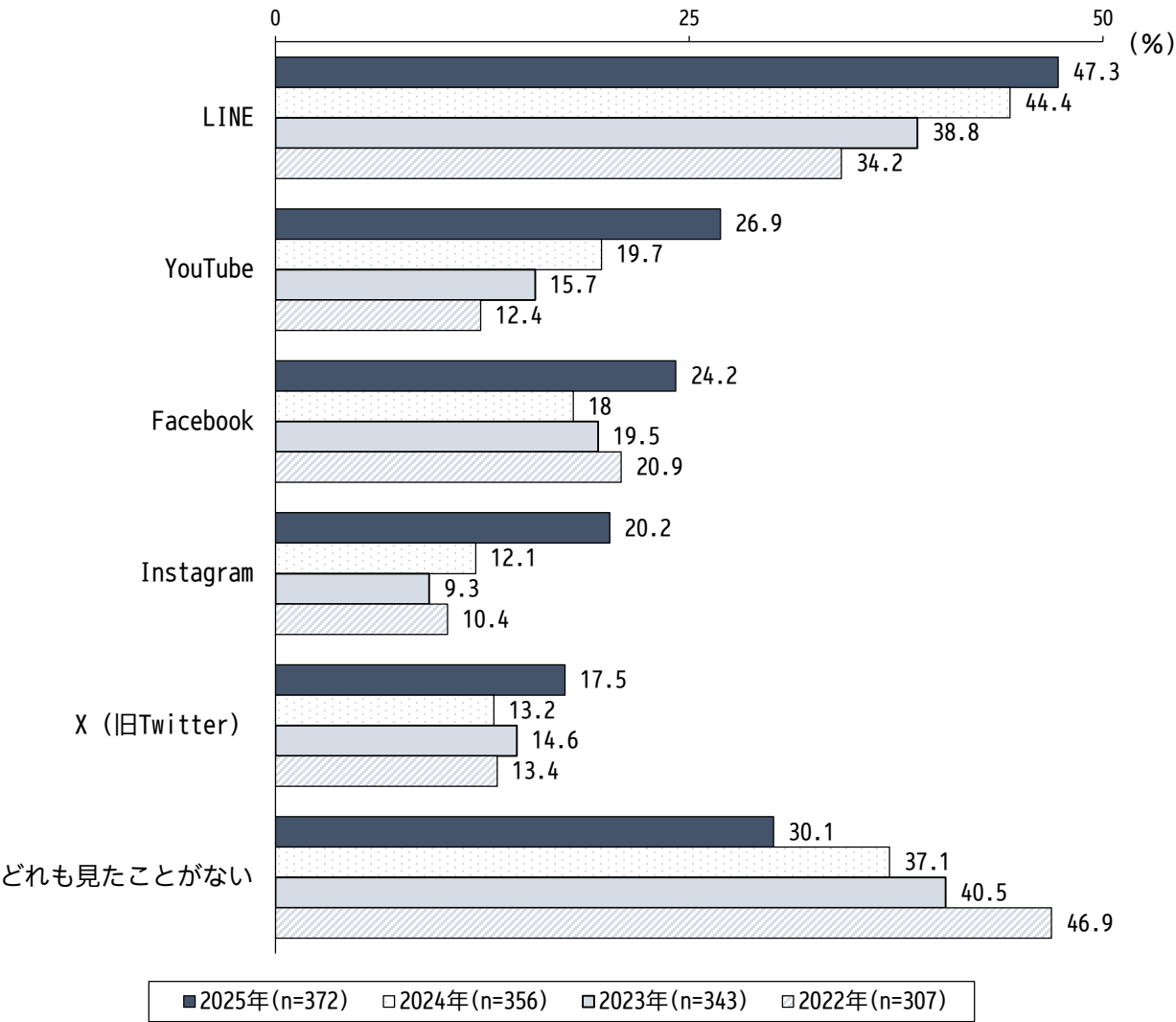
※「その他」を選択した方の主な内容

- ・市民の声、議員の活動(市、県、国会含む)
- ・市職員の仕事の内容紹介
- ・郡山のこんなところがすごい、こんな素敵な人がいるよ、こんな施設がありますよ、などの特集
- ・人口増加に対する取組みと実情
- ・出身者の有名人
- ・市内で実施するイベント・講座等の募集

「まちづくり・行政計画」、「健康・福祉」、「防災・交通・くらし・安全」がほぼ同数で上位を占めた。生活に身近な内容についての回答数が多かった。一方、「しごと・産業」や「農業・建設」などの分野については、興味・関心の度合いが低いことが伺い知れた。

問17 市公式SNSのうち、配信している情報を見たことがある媒体を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

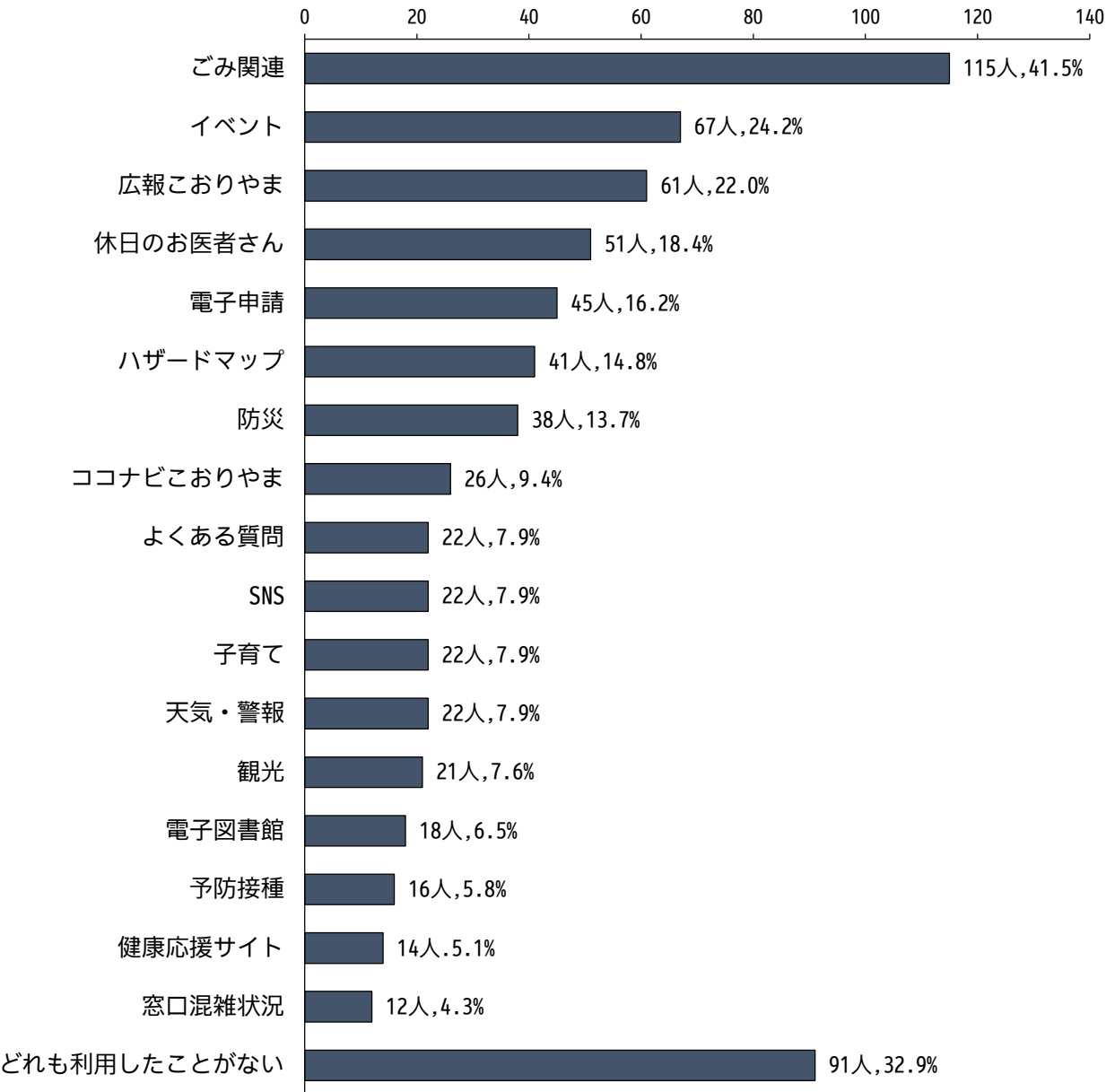
(回答者：372人)



SNSの利用者が年々増加しており、「どれも見たことがない」が年を追って減少してきている。とりわけ、「LINE」及び「YouTube」については毎年増加しており、今後も増加していくものと思われる。最も身近なSNSの広報手段であり、注力していくべき手段である。

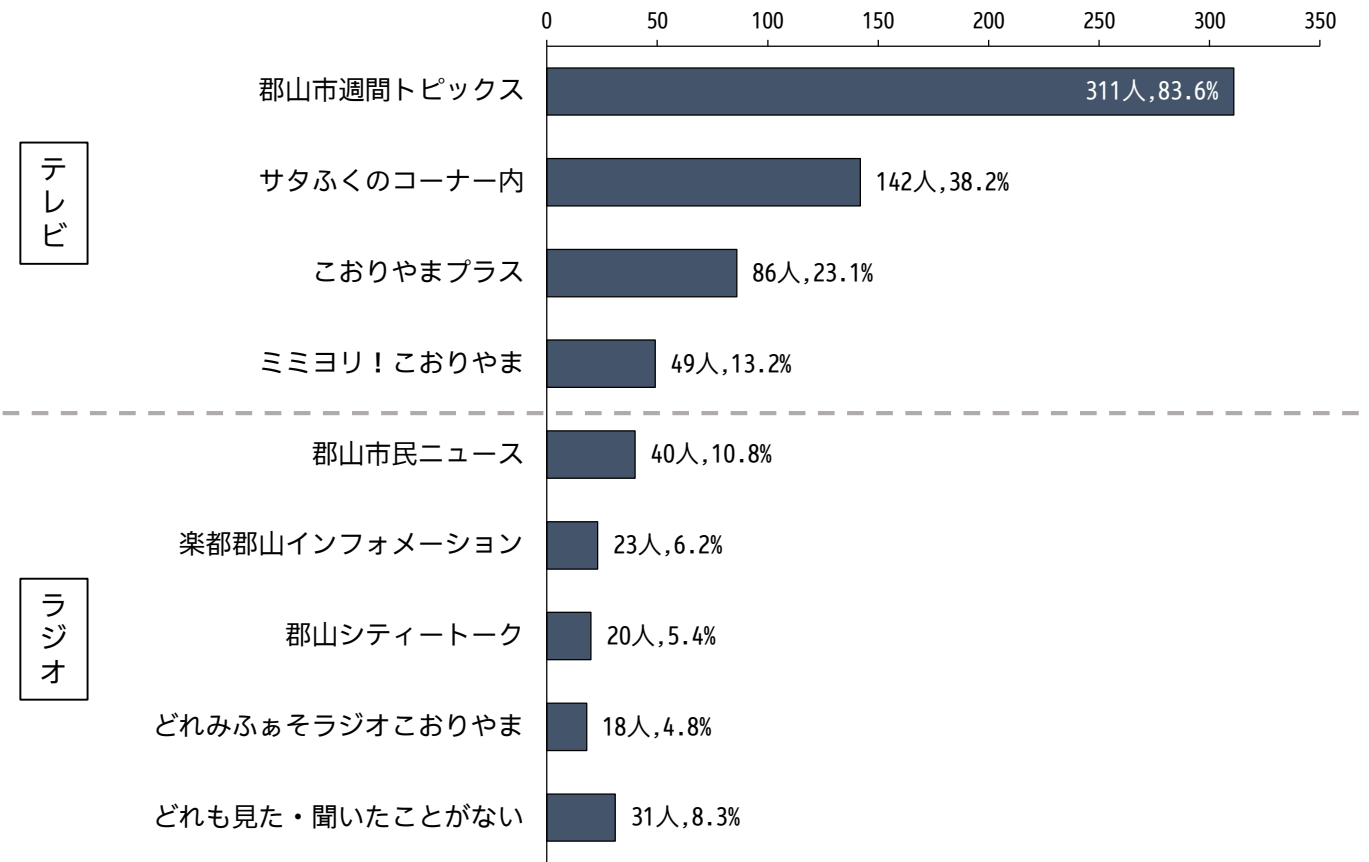
問18 市公式LINEを友だち登録している方へお聞きします。
市公式LINEのリッチメニュー（※）で、よく利用する項目（「受信設定」を除く。）
を教えてください。（当てはまるもの全て選択）（回答者：277人）

※トーク画面下部（キーボードエリア）に固定で表示されるタイル状のメニューのこと。



公式LINEでは①「暮らしガイド」②「ピックアップ」③「防災・健康」の3つにカテゴリー分けされており、それぞれ①「ごみ関連」「電子申請」、②「イベント」「広報こおりやま」、③「休日のお医者さん」「ハザードマップ」が選ばれているが、利用率が高い項目については、「よく使う項目」などで1つにまとめられるとより利便性の高いものになると推察される。また、どれも利用したことがない方が3分の1を占めていることから、リッチメニューの見直しやさらなるPRが必要である。

問19 テレビとラジオで、市政広報番組を放送しています。次のうち見たこと・聞いたことがある番組を選択してください。（当てはまるもの全て選択）（回答者：372人）



認知度はテレビ番組がラジオ番組をすべて上回っている結果となった。テレビ番組のうち、「週間トピックス」については、複数局で週次放送であることもあり認知度が高く、市政広報手段としては最も優れていると考えられる。一方で、費用対効果を考慮しながら市政広報番組を企画していく必要がある。

【広報紙について】

- ・情報が沢山あるので、今後とも利用させていただきます♪広報にお得なクーポンなどが付いているとより多くの人が利用するのではないかと思います。高齢者はSNSを利用することが難しいので、書面での情報提供は必要だと思います。（50代 女性）
- ・昔ながらの大切な情報だけが書いてあるシンプルな広報が好きです。最近の広報は読んでいて楽しいのですが、情報が多く読むのに時間がかかってしまいます。（40代 女性）
- ・行政への意見・要望に対する行政の回答を掲載するコーナーがあるといいと思います。（30代 男性）
- ・広報はやはり紙が良いです。ざっと瞬時に見渡せるから。（60代 女性）
- ・郡山市広報誌の高齢者情報の活字はワンランク大きくお願いします。小さすぎて疲れます。（70代 女性）
- ・広報が配布されたら気になる記事や参加できるイベントや講座がないか？とチェックします。自分なりに記録しておかないと忘れることも多く、今回最終ページのイベントカレンダーを利用すれば良いんだと気づきました。（60代 女性）
- ・手話でつながるの表紙の写真の表情が良かった。印象に残る。関連ページを見たいと思った。（50代 女性）
- ・広報こおりやまは毎月みています。特に子育てと、休日当番医は必ず確認しています。カラーでページ数もあり、費用はかかってそうですね。配られても、見ないひと、サラッとしか見ない人もいるので、そこまでいい紙でなくてもいいような気もします。（40代 女性）

【広報紙 配送 について】

- ・町内会を通じた配布は継続で良いです。加えてタブレット用のフォーマットで配信するのも時代の要請です。紙媒体を好む高齢者もいますから、閲覧用にファイルしたものを行政センターや公民館、図書館に配置するのが良いかと思います。（50代 男性）
- ・高齢者地区ですが、町内会を通じて届くのが月初。スーパーで手に入れた方が早い。町内会を抜きたいという人が多くなってる。（70代 女性）
- ・市政広報は町内会の回覧板で回って来ます。なかなか必要がないと市広報は検索しないので、回覧板で来ることによって必要情報を目にできるので、今後もこのかたちで継続して欲しいです。（40代 女性）

【広報紙 その他 について】

- ・周囲では「広報こおりやま」を読んでいるという人は少ない印象がある。各世帯に配布ではなく回覧のみ、もしくは希望世帯のみで良いのではないかな。紙質や画質も高すぎてすぐに廃棄されると思うのもったいないと感じる。ビジュアルにはこだわらず情報や内容を重視した方が、財政的には市民の利益になると思う。（40代 女性）
- ・町内会で広報の配布を担当しているが、最近の若い世帯には、広報さえも迷惑ビラ扱いする者がいる。広報の重みというか、重要性が全世代に伝わることを願っている。どうしたら良いのかは、わからない。（50代 男性）

【SNS について】

- ・以前よりウェブで情報発信している頻度が増えて、良い印象があります。ゴミの分別がわからなくて、調べるツールも出来てありがたいです。毎月の広報誌も見やすくなりました。写真を多用してもらって楽しいです。最初の目次のページが大雑把でつまらないので、もっと楽しい誌面にリニューアルして欲しいです。（50代 女性）
- ・LINE登録しています。LINEでもっと簡単に週間トピックスみたいなものが見れたらいいと思います。（40代 女性）
- ・facebookで広報される基準が何かわからない。開成山公園イベントも全てが広報されるわけでもないように思う。開成山サイトにも掲載されてないイベントもあり、ニュースで知る結果になるので残念に思う。（50代 女性）

【WEBサイト について】

- ・具体的に何と言うことは無いのですが、郡山市のウェブサイトは知りたい情報までたどり着けない事が多いという印象があります。他の市町村のほうが情報にアクセスしやすさがあります。もう少し詳しい情報まで載せてもらえると問い合わせ減ると思います。 （40代 女性）
- ・市HPもそうですが、コンテンツがわかりにくい。 検索機能も使いづらい。全体的に見直しが必要かと思います。閲覧や検索の履歴も充実させればよいと思います。早い機会にデジタル版に移行すべきだと思います。 （60代 男性）

【その他】

- ・テレビやラジオ、新聞などの媒体は旧態化しておりデジタルサイネージや公共交通機関での案内など多様な手法に力を入れてはどうか。 （50代 男性）
- ・ココラジとの連携を密にしたり、ポッドキャスト番組を作ったりして欲しいです。須賀川のウルトラFMや本宮市のモットコムを観ているとうらやましいです。 （60代 男性）
- ・私は広報誌を隔々読みますが、TVは全く見ません。SNSは見ますが、LINEは使いません。というように色々な人がいるでしょうから、大変でも全てのツールで発信して欲しいです。 （50代 女性）
- ・費用対効果があるか、テレビやラジオの広報番組も必要か判断が必要かなと思います （30代 男性）
- ・QRコードが掲載されているので、便利です。しかし、無料相談・検査は相変わらず電話のみ。申込用QRコードをそれぞれに掲載するのは難しいでしょうか。 （60代 女性）